



令和2年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

令和元年9月12日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 東
コード番号 9636 URL <https://www.kin-ei.co.jp>
代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)田中 耕造
問合せ先責任者 (役職名)取締役経理部長 (氏名)好井 裕一 (TEL)06(6632)4553
四半期報告書提出予定日 令和元年9月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和2年1月期第2四半期の業績(平成31年2月1日～令和元年7月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年1月期第2四半期	1,957	11.2	185	53.2	189	47.5	127	47.8
31年1月期第2四半期	1,760	△4.1	120	△14.5	128	△9.6	86	△3.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2年1月期第2四半期	45.60	—
31年1月期第2四半期	30.84	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2年1月期第2四半期	6,215	2,111	34.0
31年1月期	6,170	2,012	32.6

(参考) 自己資本 2年1月期第2四半期 2,111百万円 31年1月期 2,012百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
31年1月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2年1月期	—	0.00	—	—	—
2年1月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和2年1月期の業績予想(平成31年2月1日～令和2年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,690	2.0	210	6.9	210	3.2	120	1.8	43.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2年1月期2Q	2,821,000株	31年1月期	2,821,000株
2年1月期2Q	32,140株	31年1月期	32,135株
2年1月期2Q	2,788,864株	31年1月期2Q	2,789,075株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、通商問題や世界経済の影響により輸出が低調に終わったものの、雇用情勢の改善を受けた個人消費の持ち直しが続き、設備投資も一部を除き増加傾向を維持するなど、概ね緩やかな景気回復基調のうちに推移しました。

この間、当社におきましては、事業全般に亘って顧客満足度のより高いサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理のさらなる徹底を図り、増収に応じて営業原価が増加しましたが、諸経費全般に亘って鋭意節減に努めました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、映画では、“名探偵コナン” “アラジン” がヒットしたほか、“キングダム” “トイ・ストーリー4” “アベンジャーズ/エンドゲーム” “ドラえもん” “コンフィデンスマンJP” “天気の子” “マスカレード・ホテル” “ザ・ファブル” などの話題作品を上映して観客誘致に努めました。また、「あべのハルカス」で集客力を増した阿倍野地区への来訪者を「あべのアポロシネマ」へ誘致するため、ハルカスをはじめ近鉄グループやその他の周辺施設と連携し、積極的な販売促進活動を展開するとともに、顧客基盤の充実を図るため、映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」の会員獲得に努めました。さらに、事前のクレジットカード決済不要の座席予約が好評のチケット予約・発売システムを本年2月にリニューアルし、より利便性を高めたほか、チケットカウンター及びルシアスビル4階連絡通路を美装化するなどイメージアップを図る一方、定員42名の小規模スクリーン「プラスワン」を活用し効率的な劇場運営を図りました。また、娯楽場事業におきましても、劇場事業と一体となった集客を継続して推進いたしました結果、この部門全体の収入合計は、前年同期に比較して19.2%増の1,043,992千円となり、営業原価控除後では103,327千円のセグメント利益（前年同期比103.1%増）となりました。

不動産事業部門におきましては、アポロビルにおいて、防犯カメラ増設、地下3階ほか共用部の照明器具LED化等の諸工事を実施し、ビルの機能向上を図りました。ルシアスビルにおいても、駐車場管制システム更新工事を実施したほか、空調制御設備及び空調機の更新を段階的に進めるなど、安全・快適なビルづくりを推進しました。また、「あべのAステージ」等を活用し、アポロビルと一体での集客イベントを開催、劇場事業とも連携した誘客活動を進めるとともに、賃貸収入の確保に向けて、空室部分への後継テナント誘致に注力し、期間を通じて高いビル入居率を維持しました結果、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めたこの部門全体の収入合計は、前年同期に比較して3.3%増の913,920千円となり、営業原価控除後では231,895千円のセグメント利益（前年同期比7.0%増）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期に比較して11.2%増の1,957,913千円となりました。一方、営業利益は185,235千円（前年同期比53.2%増）となり、経常利益は189,277千円（前年同期比47.5%増）、四半期純利益は127,167千円（前年同期比47.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は、短期貸付金の増加等により前期末に比較して45,142千円増加し、6,215,484千円となりました。

負債は、設備関係未払金の減少等により、前期末に比較して53,481千円減少し、4,104,397千円となりました。

また、純資産は、四半期純利益など利益剰余金の増加額が配当金の支払い等による減少額を上回ったため、前期末に比較して98,623千円増加し、2,111,086千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、投資活動による支出が営業活動及び財務活動による収入を上回ったため、前事業年度末に比較して22,946千円減少し、72,243千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動で得られた資金は、565,481千円で前年同期と比較して208,149千円増加しました。これは、その他の流動資産の回収等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動で使用した資金は、1,060,520千円で前年同期と比較して508,683千円増加しました。これは、短期貸付金の増加等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動で得られた資金は、472,093千円で前年同期と比較して229,984千円増加しました。これは、短期借入金の調達等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、「あべのハルカス」をはじめ魅力ある施設が揃った阿倍野地区への来訪者は、高水準で推移することが見込まれます。シネマ・アミューズメント事業部門では、阿倍野地区唯一の映画館である「あべのアポロシネマ」への一層の誘客を目指し、「あべのハルカス」「あべのキューズモール」「天王寺ミオ」「てんしば」など周辺施設との共同販売促進策を推進してまいります。また、ライブや舞台挨拶などを映画館で中継・上映する「ODS」作品が好調であることから、同作品の上映により積極的に取り組むほか、映画館内での作品PRに一層注力するとともに、映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」の会員向けに、メールマガジン等により作品情報を提供し、誘客に努めます。さらに、リニューアルしたチケット予約・発売システムによるサービスの一層の充実に力を注ぐ一方、スクリーン「プラスワン」を活用した効率的な劇場運営を進めてまいります。

また、不動産事業部門におきましては、テナント入居率の維持向上による賃貸収入の確保に努めるのはもとより、アポロビルにおいてはトイレのリニューアルを順次進めるとともに、1階南系統空調機更新工事を施行するほか、ルシアスビルにおいては15、16階共用部の美装工事及び照明器具LED化工事を実施いたします。このほか、引き続き設備更新・改良工事等を計画的に進めるなど、ビルのさらなる機能向上を図り、安全で快適な環境づくりに努めてまいります。加えて、「あべのアポロシネマ」との連携の推進、「あべのAステージ」・「同スカイコート」の運営を通じた街の賑わいの創出により、一層の集客に注力するなど、安定した経営基盤の確立に格段の努力を傾けてまいり所存であります。

通期の予想につきましては、売上高は3,690百万円（前期比2.0%増）、営業利益は210百万円（前期比6.9%増）、経常利益は210百万円（前期比3.2%増）、当期純利益は120百万円（前期比1.8%増）となる見込みであります。なお、平成31年3月14日に「2019年1月期決算短信（非連結）」にて公表した業績予想から、売上高を60百万円、営業利益及び経常利益を10百万円それぞれ増額しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成31年1月31日)	当第2四半期会計期間 (令和元年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	95,189	72,243
売掛金	121,138	113,281
商品	4,029	4,927
短期貸付金	603,259	931,160
その他	243,733	89,476
流動資産合計	1,067,351	1,211,089
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,982,837	2,791,089
機械及び装置(純額)	44,115	39,780
工具、器具及び備品(純額)	65,463	92,209
土地	1,123,748	1,123,748
建設仮勘定	4,809	-
有形固定資産合計	4,220,973	4,046,827
無形固定資産	38,511	114,517
投資その他の資産		
差入保証金	801,085	803,660
その他	42,420	39,388
投資その他の資産合計	843,505	843,049
固定資産合計	5,102,991	5,004,394
資産合計	6,170,342	6,215,484
負債の部		
流動負債		
買掛金	124,688	194,796
短期借入金	250,000	750,000
1年内返済予定の長期借入金	-	18,750
未払法人税等	34,571	68,280
賞与引当金	12,100	15,000
その他	1,187,223	507,809
流動負債合計	1,608,583	1,554,636
固定負債		
長期借入金	600,000	581,250
退職給付引当金	96,296	99,096
受入保証金	1,553,885	1,575,490
資産除去債務	290,000	290,000
その他	9,113	3,924
固定負債合計	2,549,295	2,549,761
負債合計	4,157,878	4,104,397

(単位：千円)

	前事業年度 (平成31年1月31日)	当第2四半期会計期間 (令和元年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,532,353	1,631,631
自己株式	△109,935	△109,953
株主資本合計	2,010,773	2,110,033
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,690	1,052
評価・換算差額等合計	1,690	1,052
純資産合計	2,012,463	2,111,086
負債純資産合計	6,170,342	6,215,484

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成31年2月1日 至令和元年7月31日)
売上高	1,760,709	1,957,913
営業原価	1,493,140	1,622,689
営業総利益	267,568	335,223
一般管理費	146,670	149,987
営業利益	120,897	185,235
営業外収益		
受取利息	563	1,010
受取配当金	138	124
違約金収入	8,226	6,390
雑収入	470	1,599
営業外収益合計	9,398	9,124
営業外費用		
支払利息	1,939	5,079
雑支出	0	3
営業外費用合計	1,940	5,082
経常利益	128,355	189,277
特別利益		
国庫補助金	-	79,055
特別利益合計	-	79,055
特別損失		
固定資産除却損	3,197	6,286
固定資産圧縮損	-	78,066
特別損失合計	3,197	84,352
税引前四半期純利益	125,158	183,979
法人税、住民税及び事業税	48,326	62,103
法人税等調整額	△9,191	△5,291
法人税等合計	39,135	56,811
四半期純利益	86,023	127,167

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成31年2月1日 至令和元年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	125,158	183,979
減価償却費	155,205	158,866
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,710	2,800
受取利息及び受取配当金	△701	△1,134
支払利息	1,939	5,079
国庫補助金	-	△79,055
固定資産除却損	3,197	6,286
固定資産圧縮損	-	78,066
売上債権の増減額(△は増加)	11,425	7,857
その他の流動資産の増減額(△は増加)	84,920	174,833
仕入債務の増減額(△は減少)	15,241	70,108
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△43,315	△94,476
その他	5,762	7,421
小計	362,544	520,633
利息及び配当金の受取額	818	1,087
利息の支払額	△2,058	△5,556
補助金の受取額	33,880	79,055
法人税等の支払額	△37,852	△29,738
営業活動によるキャッシュ・フロー	357,331	565,481
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△523,684	△623,817
無形固定資産の取得による支出	△21,884	△81,050
短期貸付金の増減額(△は増加)	8,265	△327,901
差入保証金の増減額(△は増加)	21,258	△2,575
受入保証金の増減額(△は減少)	△25,462	1,605
その他	△10,330	△26,783
投資活動によるキャッシュ・フロー	△551,837	△1,060,520
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	△30,000	500,000
長期借入れによる収入	300,000	-
配当金の支払額	△27,890	△27,888
その他	-	△17
財務活動によるキャッシュ・フロー	242,109	472,093
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	47,603	△22,946
現金及び現金同等物の期首残高	85,507	95,189
現金及び現金同等物の四半期末残高	133,111	72,243

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(平成30年2月1日から平成30年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	876,177	884,531	1,760,709	—	1,760,709
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	876,177	884,531	1,760,709	—	1,760,709
セグメント利益	50,873	216,695	267,568	△146,670	120,897

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(平成31年2月1日から令和元年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,043,992	913,920	1,957,913	—	1,957,913
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,043,992	913,920	1,957,913	—	1,957,913
セグメント利益	103,327	231,895	335,223	△149,987	185,235

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。